

沖なわ、というところ

佐野 忠雄

大阪を出て、福岡で通関し、空港二時間那覇空港についた時は梅雨のあけた沖なわ本島は強い太陽で暑かった。ハワイ式に琉球美人から貝殻のレイをつけてもらって、沖なわに二台しかないという冷房バスにのって早速見物に出かけた。日本軍の軍司令部が、その昔琉球の王様の住んでいた首里城は、1945年の大戦にすっかり破壊され、僅かに残る石垣と再建された守札の門が昔のおもかげを思わせるにすぎず、見はらしのよい高台には1950年に設立された琉球大学の学舎が散在している。沖なわの全人口約80万（日本の一県にもみたく）うち那覇市に27万、3万以上を市とよび、市が那覇をふくめて8つ程あるそうである。本島中部の美しい東支那海側には、はかり知れない兵器と宏大な飛行場がならび、同じ太平洋岸は米軍のリクレーション施設になっている。

僅かに国道一号線と細々と米軍施設の外の農場で働くお百姓以外の大部分の沖なわの人達は本島北部と南部に居住しているのが現在の沖なわ本島である。1945年本島中部の東支那海側より沖なわに上陸した米軍は一路南下し、優秀な兵器物量にものをいわせ首里の守線を破り南進した。後進をつづける日本軍沖なわの方約30万の人命は本島南端喜屋武岬の附近で散り果てたのです。そこに立つ多くの慰霊塔、それは高野山奥の院を思い出さるものであり、1945年6月22日、15~16才のうら若くして亡くなった県立第一、第二高女の生徒や師範学校の学徒の最後の地には姫ゆりの或は健児の塔が建っている。果してこれらの人々は何を願ひ何を考え散って行ったのでしょうか。そして、それらの人々の最後はどう報われているのでしょうか。それらの塔には飯盛山の白虎隊の如く花束がつきないときかされて、あわれをさそわれるばかりであります。今の沖なわの人は幸せでせうか。すくすくと生えている美しいサトウキビ島が刈りとられた時、今なお多くのイ骨が発見されるときいたとき、もっと世の中の人はお互を信頼し、この世の中にみにくい争いをなくしたいと考えないのだろうか。沖なわ南端にたつ多くの塔は日本人だけのみるものでなく、多くの外国人にこそみてほしい南部戦跡であると思いました。

その沖なわが今やベトナム戦の一大基地となっている。一人の人命も尊重されねばならない時代に30万の人命

が狭い土地にうしなわれ戦争反対を地について心より叫びたいであろう人々のひにくな現状、ここにも何ものにもました悲げきを感じたのですが。果してどんなものでしょうか。旅人の服は北風でぬがすことが出来なくて、暖い光こそ一番いい方法でありました。米軍よ帰れ帰れでは莫大な資金をつぎこんだ米軍を帰すことは簡単でないでしょう。沖なわの地上といわず地下縦横にはかりしれない武器弾薬を貯蔵し日夜戦争に専心している米軍を沖なわから引き上げさせる方法はどうしたらよいか。永久の友情を期して手を振り合って別れあう日がどうしたらくるのだろうか。沖なわの現状はきびしく、沖なわの人達にさわやかな風のふく日の一日も早く来ることを祈るのみです。

日本の子供と全じ教科書を、小中学校でつかっている沖なわの方の日常語はもちろん日本語であり、琉球語であって不思議に那覇でみるカンバンには英語が少いように感じた。これは一つは観光客の対象を主として日本本土の人達においているためではないでしょうか。まだまだハワイと違って世界的な観光地となっていないからでしょう。しかしこれにはいろいろ制約もありませう。住んでいる人達の生活はどうか短い期間の滞在でよく分らないが、決して余裕があるとは思えません。真四角で(台風を防ぐため)何となく頑丈ではあるが色彩感に乏しい家々は沖なわの美しい山、熱帯魚の泳ぐ青い海、一年中咲いている真赤な花々とくらべ、一層わびしいように思いました。私のおあいした範囲の方にきくとサラリーは円に換算すると日本と全じぐらいのようです。しかし本島の方には大部分免税の外国品もほとんど関係のないように思われる。それだけにやはり物価が高いということになるのだろう。これら免税品、車の右側通行、米国ドルの通貨、そして本島中部に忽然としてあらわれたアメリカの田舎町を思い出させるようなコザ市、等々日本よりはなれた沖なわを感じさせます。

原子力の研究で沖なわと関係するものは何もありません。那覇軍港には原潜が浮び、原子力空母がテイ泊し、ミサイルの基地があるそうですが、小生の用件は琉球大学化学教室であります。先にもかきましたように、1950年に設立された沖なわ最高学府琉球大学は本年まで、米軍政

府の委嘱した理事会によって運営されてきたのですが、この七月より琉球政府に管理が移されました。それと共にサラリーの査定が始められ、給料が変わるかも分らないということで、大学本部には赤旗がひるがっていました。現在大学には文理学部、農家政工学部、教育学部および本年より設置された教養部の4学部があり、4年制で、学生教2800名(来年度より4000名になる。)男女ほぼ全教で構内ではノートをもった女子学生を多く散見します。沖なわ特有のマユゲが濃く、目が大きく、健康的なお嬢さん方です。大学自身は米国シガン大学と姉妹校になっていますがこれは主として文科系統のようです。授業料は年15ドル、ということで、卒業後は大部分教員になるそうです。みせてもらった感じは新制大学ということはもちろんですが、化学教室一つをとってみても、内容の設備のない気の毒な新制大学という感じでした。その意味で私達が行って役立つのであれば出来ることをしてあげたい、これが研究心にもえる研究者への友情であると思いました。

現在化学教室には分析化学、無機化学、物理化学、有機化学の4部門があり、無機化学を除いてそれぞれ教授がおられ、大部分は台湾から来られた方だそうです。こういうに部門別はありますが、講座制というのではなく、研究者としては他に2人の助教授、1人の講師の計6人がおられるにすぎず、化学教室にくる4000ドル/年の研究費を6人で分けあっておられるわけです。これらのかたがたは教養部でやる一般講義と専門の講義をやられるのですが何分共人員の少い関係上、日本からそれぞれの専門の方が来島されて、いろんな持論或は専門の講義をして下さることを心から切望されているのです。ほしくとも買えない従って設備をほとんど持たず、薬品一つ、ピーカー一つ日本より購入し、アルコールには税金がつくという実情である。

X線写真一つとるのも日本の大学にたよらねばならず、図書館に行っても専門の図書が教多くあるわけでなく、6人の方1人1人が自分で研究をするという状態で、若い研究者には指導者もなく、相談する人もない。雑誌会という種類のものもなく、研究環境はよいとは思えない。若い助教授、講師の方は日本の、米国の大学院を出られたかたがたであり、機会があったら、さらに日本で研究したいと希望されているかたがたなのです。ただ幸いなことに、本年より日本化学会の九州支部に幹事を大学よりも出すことになったことを皆さんで喜んでおられた。それだけ内地との接しよくの機会がふえるからです。

教室内での研究としては、重クロム酸の熱力学、燐灰石の地球化学、ウラン抽出、海洋化学等をあげられている。沖なわの自然産物を考える時この地に研究費あれば本当に特徴のあるいい大学になるだろうにと思った。熱

帯の海洋、樹木、草花、魚、トモロコシ、パイナップル或は径5%長さ3m成長するのに300年を要するという大鐘乳洞の存在等々ハワイ大学に匹敵する素材は教多くある。私達は困難な環境の下で、真面目に研究に励んでられるこれらのかたがたに勇気と刺戟を常に与えられてあげたいものです。先方は1ヶ月位滞在して講義してくれることを望んでおり、前期、後期それぞれ中間の6月か7月の来島を希望しています。化学教室以外では物理教室と工学部関係を少しみせてもらった。一般に云えることは、少い研究費でやり得ることは意欲的にやろうという意志を強く感じます。工学部には、機械、電気、土木の三学科があり、卒業生は大てい米軍施設に就職するそうです。本島中央にあるそれら施設特に病院は東洋一の設置を誇るとか、何ともチグハグなことです。

琉球にはこの外に私立の沖なわ大学(文、法、経)と本島中部にやはり私立の国際大学(文、法、経)があるそうです。

沖なわの紅型、ワニ皮工場或は陶器はしられている。しかし近代工業としては小生のきいた範囲ではOrionというビール会社と沖なわセメントがあるにすぎない。ビール会社Orion(Orionというビールは相当おいしい。)は本島やや北部よりの名護町にある。海岸の美しい漁師町で、イルカのとれるので有名な処。今年は収獲が少く町長の人気下落したとか、イルカの量によって町長の信任、不信任が決るらしい。

沖なわの主産物であるパイナップルとサトーキビ。ご承知のようにパイナップルは水をきらい、サトーキビは水がなくては甘くならない。沖なわの主産物は相反する性質をもっている。(何か沖なわを示しているかのよう。)このため山の斜面にパイナップルを、水はけの悪い平地にサトーキビを植えている。科学的なことを割合スムーズに解決している沖なわの方、どうか政治的な面(しっかり考えてやってほしいと祈るばかりです。ベトナム戦争は迷惑でせう。沖なわの一部の人をうるおしているでしょう。しかし工業のない大部分の人達には無関係のことです。サンゴ礁につつまれたグリーンの美しい海、南国の香りのみちている沖なわ、大阪から僅か2時間の沖なわにお出かけ下さい。そしてよく自分自分で考えてみて下さい。長くなりすぎてすみません、そろそろ夜もおそくなって来ました。小生はこの辺で失礼します。皆様美しい沖なわのムーンライトビーチをご想像下さい、琉球料理、泡盛り、沖なわの夜は各人それぞれに思いを描いて下さい。小生も詳しくは存じません。おやすみなさい。

大阪大学工学部原子力工学科教授